⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の10兆253億円の受取超過から2,255億円の支払超過となった。収入は、前年同期（12兆4,405億円）に比べ、10兆874億円減少して２兆3,531億円となった。一方、支出は、前年同期（２兆4,153億円）に比べ、1,634億円増加して２兆5,786億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

保険の収支は、収入12兆7,416億円、支出19兆9,593億円、差引き７兆2,177億円の支払超過であって、前年同期の７兆1,397億円の支払超過から、780億円支払超過額が増加した。

３　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	令和７年度第１・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	378,859	111,454	267,405	372,686	128,677	244,009
国債(１年超)	353,175	85,727	267,448	347,162	103,150	244,012
借入金	25,684	25,727	△ 43	25,524	25,527	△ 3
国庫短期証券等	890,653	915,290	△ 24,637	1,029,755	1,035,455	△ 5,700
国庫短期証券	780,653	785,290	△ 4,637	899,755	905,453	△ 5,698
一時借入金	110,000	130,000	△ 20,000	130,000	130,002	△ 2

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、26兆7,405億円の受取超過であって、前年同期（24兆4,009億円の受取超過）に比べ、２兆3,396億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行35兆3,175億円、償還８兆5,727億円、差引き26兆7,448億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入２兆5,684億円、償還２兆5,727億円、差引き43億円の支払超過であった。

国庫短期証券等の収支は、２兆4,637億円の支払超過であって、前年同期（5,700億円の支払超過）に比べ、１兆8,936億円支払超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行78兆653億円、償還78兆5,290億円、差引き4,637億円の支払超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆円、償還13兆円、差引き２兆円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 220	△ 117,581	△ 117,801
特別会計等	△ 102,069	74,321	△ 27,749
財政投融資	△ 5,271	△ 29,059	△ 34,330
外国為替資金	△ 2,255	△ 24,138	△ 26,394
保険	△ 72,177	83,020	10,844
その他	△ 22,366	44,498	22,132
小計	△ 102,289	△ 43,261	△ 145,550
国債等	267,405	△ 3,315	264,090
国債（１年超）	267,448	△ 3,304	264,144
借入金	△ 43	△ 11	△ 54
国庫短期証券等	△ 24,637	46,576	21,939
国庫短期証券	△ 4,637	66,001	61,364
一時借入金	△ 20,000	△ 19,426	△ 39,426
合計	140,479	—	140,479
調整項目	333	—	333
総計	140,812	—	140,812

㈱１．「一般会計」には、交付税及び譲与税配付金特別会計が含まれている。

２．「調整項目」とは、国庫金が日本銀行代理店の窓口で受払される時点と、日本銀行本店の政府預金が増減する時点との時間的なズレの調整等のための項目である。

３．(B)欄以下の内訳の数字は暫定的なものであって、後に若干変更することがある。

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	令和７年度第１・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	—	△ 3,540
特別会計の債券売・買(△)	33,027	△ 156,860
財政投融資	12,110	△ 26,200
国債整理基金	20,917	△ 130,660
その他	△ 191,585	△ 154,646
計	△ 158,558	△ 315,046

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、15兆8,558億円の支払超過であって、前年同期（31兆5,046億円の支払超過）に比べ、15兆6,488億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達及び資金返済はなく、前年同期は3,540億円の支払超過であった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売・買の収支は、前年同期の15兆6,860億円の支払超過から、３兆3,027億円の受取超過となった。財政投融資の収支は、前年同期の２兆6,200億円の支払超過から、１兆2,110億円の受取超過となった。国債整理基金の収支は、前年同期の13兆660億円の支払超過から、２兆917億円の受取超過となった。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、19兆1,585億円の支払超過であって、前年同期（15兆4,646億円の支払超過）に比べ、３兆6,939億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（14兆812億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（333億円の受取超過）を除いた収支は、14兆479億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、15兆8,558億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（３兆9,407億円）に比べ、１兆8,079億円減少して２兆1,329億円となった。